

九州エリアを中心に西日本の供給力を強化

ポラテック株
専務取締役 北大路康信

2016年の新設住宅着工戸数は96万7237戸と二年連続で上昇傾向を維持し、業界内でも明るい話題が少なからず聞こえるようになってきた。そうした中、業界最大手のポラテック(株)は2020年オープンを予定していた九州工場の建設計画を今年の5月オープンに前倒した。計画前倒しのねらいや今後の木造住宅市場の見通しなどについてポラテック(株)専務取締役の北大路康信氏に話をうかがった。



北大路康信 専務取締役

す。これは全エリアでシェアが伸びたことによります。

戸建てや集合住宅については依然として都市部の需要に支えられています。一方、中大規模木造非住宅の需要は、全工場における生産坪数で非住宅の占める割合は6~7%程度に達しています。その中でも東北地方は木造非住宅が最も多く建っているエリアで、非住宅分野の全生産坪数の14~15%を占めています。やはり、土地の取得費用が高く、防耐火の規制が厳しい都市部よりも、地方のほうが中大規模の木造非住宅を建てやすい環境にあることを表していると思います。

—：国土交通省が1月31日に発表した2016年の新設住宅着工戸数は96万7237戸（前年比6.4%増）となり、2年連続で増加となりましたが、今年度の業績はどのようになる見通しでしょうか？また、一般住宅の需要が回復傾向に転じた一方で、中大規模木造非住宅の需要の変化もお教えください。

北大路：昨年度は、プレカット工場のみならず、合板メーカーや建

材メーカーなども一定の利益を上げているようですし、ここ最近では倒産企業の数も減ってきました。

弊社については昨年度は生産量が前年比124%で、今年度は114%に達する見込みです。業績アップの要因としては富士工場と坂東工場に設備投資を行い、増産体制を整えたことによるものです。少し先の話になりますが、今年度の決算では生産坪数・売上棟数・利益など、全ての項目において過去最高を記録する見通しで

—：最近では、一般流通材を用いた中大規模木造建築の分野で様々な設計手法や構法が確立されつつあり、コスト面のハードルが下がったことで急速に普及が進みつつありますが、こうした市場動向に対して、どのような戦略を考えていますか？

北大路：中大規模の非住宅における木造という選択肢は「速い、軽い、安い」という三つのメリット